

## 忠霊塔設計競技応募案における記念性の表現について

### On the expression of monumentality in proposals of Churei tower competition

○永田琴乃<sup>1</sup>, 田所辰之助<sup>2</sup>\*KotonoNagata<sup>1</sup>, ShinnosukeTadokoro<sup>2</sup>

On the expression of monumentality by analysis of the plan, section and plot plan of proposals for the Churei Tower competition held in 1939. As a result, in the selected proposals, the monumentality as a symbol diverted tombstone type was expressed, on the other hand the representation of monumentality mediated by the interior space became factors that led Modernism proposals to be defeated.

#### 1. はじめに

本稿は、様式を盛んに問うた戦前から戦後の時代を設計競技を軸に連続的に捉え直すことで、戦争によって断絶して語られる日本の建築思想の再編成と、それによる日本の建築におけるモニュメンタリティ、シンボル性の表現を明らかにすることを目的としている。

#### 2. 研究方法

戦前から戦後までの間に発行された建築雑誌、書籍、民間新聞、週刊誌を用いて、当時の設計競技に関連する募集要項／応募案／評価から建築家の思想や大衆の反応について調査、分析を行う。分析対象は『忠霊塔図案』で紹介されている入選案『建築雑誌』で紹介されている落選案の内、塔内部に祭壇及び納骨室を持つ第一種第二種の 45 案を元に、平面図、配置図、断面図からそれぞれ設計者が考えた記念性に対するアプローチの違いについて考察を行った。

#### 3. 応募案にみられる記念性

##### 3-1. 忠霊塔競技設計

忠霊塔設計競技は、1939 年に財団法人忠霊塔顕彰会が主催した 3 種<sup>1)</sup>の内外に建てる忠霊塔のプロトタイプを募った設計競技である。審査員の約半分が軍関係者<sup>2)</sup>であった点、また設計競技と民間新聞の強い結びつきがあった点でも、「近代日本の競技設計史上でも、群を抜く」<sup>3)</sup>大衆に開かれ、関心を集めた設計競技であった。また、審査員に大老家とモダニズムを率いる岸田日出刀の存在から、当時の建築界では「日本趣味」と「モダニズム」時代の様式を問う場になることが期待された。

##### 3-2. 平面図

記念性の強調に「左右対称」、「基壇」、「列柱表現」を用いた基本的な手法が多く用いられる中で、一部のモダニストの間ではその基本手法を避けた新たな記念性表現の検討がみられた。

##### 3-3. 配置図

外部空間での忠霊塔の記念性を重要視する場合、一要素として植物による森厳<sup>4)</sup>が用いられる傾向がみられ、反対に植栽計画の主張が弱いモダニスト案に関してはより内部空間を重要視している傾向がみられた。

##### 3-4. 断面図

杉山案を除く全入選案の塔には納骨堂の他に求められた以上の空間が計画されていない。一方で落選案のほとんどが塔内部に空間を所有していた。前者は忠霊塔の記念性が塔内部ではなく、外部から塔への祈祷が重要視されていた点が何え、後者では忠霊塔を単なる塔ではなく、空間として提案する新たな試みがみられる。

#### 4. 入選案に対する見解

墓石型の入選独占を巡って当時の建築界では様々な反論が寄せられた。しかし、建築界と民間新聞の報道、それぞれの入選案に対する見解には、忠霊塔設計競技に求められた新たな様式の捉え方に、現代性の追求と、飽く間でも日本のお墓としてのイメージを継承した上での「新しさ」を追求する姿勢に両者の目的の差が存在した。

#### 6. まとめ

本稿では、当時のモダニズム建築家と主催者側の間で、設計競技で問われた忠霊塔の理想像に大きな差が存在し、それによって応募案にも両者の記念性表現が異なる形で影響が現れたことが明らかになった。応募図案の分析からは、入選案、落選案の傾向の大きな違いが配置図、断面図に現れ、入選案では外部空間から見た忠霊塔の記念性の重要視、落選案では内部空間を媒介とした記念性を重要視していたことが明らかになった。そして、前者の墓石型を転用したシンボルとしての記念性に対し、後者の記念性は、大衆にとっては極めて理解しがたく、モダニズム案を「落選」という結果に導いた要因の一つとなったと考える。

1：日大理工・院（前）・建築 2：日大理工・教員・建築

